





安永八巳亥

試筆

虫徑藪を度く草風吹くさるは
花のよきほひのよき

人々菴

舟がえりてさかたのりさるるのよき 未許

証固いれ梅のよき 竹我

ありては川よき然るがて 東林

元旦

とよむ心にも又いふは

葦原

とよむ心にも又いふは

来許

舟にふりまはるる船にて

珍布

○

言ふは文政の事やと

許明

きぬの布は川梅は

来許

乙未年若女も

菜坡

歳旦

ふく青竹の心や子粒の糸は

七光

園栖人や美草の

里橋

あはれらるる子代を

庵中

うらむ心や

馬原

糸初也か

至来

○

門く

竹家

む

山江

元名やまより新白如柳より
歌詠の清きや睦 賢ちめ
福壽軒として時を梅は見
ワのありてふを初てとふる
ワのほくたのふくあふく
るるくも梅の笑ふやゆの春

○

ソセ海とて松のちとて
春の初る層のそくやとて
の春

春の初る層のそくやとて
の春
新入して月も春や門の春
さるは笛も出るとは

大めくやとて
の春
ふと神の真も
ほのくも
元名や

柳林

重静

松夢

路千

平賀

只有

梅許

岸来

羽林

兔園

巴名

玲布

来左

許澆

壽来

亭山

○
まの字はそぬのほろむ
いり初や庭の夢のぼろろ
門もくきまふを松と
天の蒼い〜やふのま
ま〜や藤ま〜し〜
積る所はま〜や玉はま
ま〜藤ま〜し〜

茶坡
許山
柳左
来祇
渡来
蛭
冬解

○
何〜の〜の〜

来賀

○
叶も木も〜の〜
ほろ〜の〜
松も〜の〜

東林
清風
共来

○
ま〜の〜
あ〜や田〜

風童
忍平

音帝

雪如ふ礼者如

天育子

同やいふ松

清旦

月形らハふ水之あや

不塞子

と川口

和光

大山くや柳を

波安心子

まよふ初月



喜真

あつちの柳をさる柳の如
まよふ初月の如

朱許
葵太

○

五

移りしや魂しるる柳しるる
かり止て雪の流るる柳
もくともあの浦の柳しるる
舞子してるる柳かぬ柳
陽光の赤良しゆるし流るる
常のやうな葉の柳しるる
室川のやうな葉の柳しるる
と夫婦のよしの葉の柳しるる
を枯の中より出るる葉の柳

許明
柳左
後来
羽林
山江
松声
梅言
青来
東林

花圃もよもやもよもや
ほほのやうな葉の柳しるる
あつた葉のよもやもよもや
のよもやもよもやもよもや
小刀のよもやもよもや

牛家
海牙
許山
老圃
多祇

あふれぬとぬるるよもやもよもや

玲市

白りし花雪のやち梅のま
出たぬせ向ふ道のま
山さやちやちと梅のま
野々州ちまこ乳まじり
ここのけけおくもまか
ゆ中ふしちやあまそめ
わらぬちままのちちま
綿くまきこ織ちぬ柳
操くまかちぬあゆま

亭山
来左
巴あ
許明
さん坡
初亮
石葛
艾水
葵太

七竹や今くちを庭のたふはま

奉昏

梅一まん雪ひてまき行ひま
新考ちる出た火まのこま
あつらちやち集ちとち
襟のちるち出たまのち
世の中ちちまかちの市
ちちちのちちちちのち
ちちちのちちちちのち

来許
山江
松声
雪静
只者
平賀
崎千
湖秋

よせとある事か男浪やさるまゝの
志のこたや海の花の栞として
喜ましくおまの白ひねりし櫛

○

まの思ふ丈こころのやまの掛
川もつげや〜花尾をよよめ山雲
あ〜いふや有るも〜花の波
〜さる事か男浪や〜栞
積りま〜海もを〜大二十日

風童
岩平
伴我

航激
七老
梅許
柳左
藤中

〜と〜も〜て〜り〜一〜意〜を
怪計ねと〜し〜年〜如〜坂
〜と〜と〜花〜や〜ま〜ち〜ら〜く〜き
招きて志を〜ね〜也〜や〜花〜若

○

喜ましくや一向〜して神の心
よ〜と〜系〜ね〜み〜さ〜ら〜る〜り〜心〜の〜市
〜の〜ま〜い〜の〜め〜を〜か〜ぐる〜夜〜や〜尾〜拂
お〜し〜下〜と〜も〜花〜は〜ら〜ぶ〜と〜や〜あ〜ま〜兵

里橋
至来
る原
来賀

許滝
許山
亭山
浪来

よふ川代と巻納るまなちよと
後より遊りけりやと云ふ

巴水
羽林

○

きく挿や妬ふら葉のし喜ひ
としの内敷きつゝのさつらふか
りち春やと傳馬のぬらうす
一とやの舞うらひもやとて唄
押さけておのゆきとや詩の飯
飯の玉の粒のまのまやとてぬ記

帰来
来左
来未
来左
来祇
清風

移りおきてあはるまはる

そ来

歳末

初まるとは屋上のりり

不寫字

○ 嵐をのちひもく
あまふおひやうと

あまふやとや中ふるあはる

天有子

○

あはるは川や流の舟のり

縁心子

幸尾

あはるのりりわつら

草花

學多し人平あふふや大なる日
とく此尾の種もつらふ令此種
大とくや種をておる一匹のさ
まはくこの種のをや尾より
種は種やさきのとむ此のさより

東林
玲布
葉坡
許明
冬扇

ゆいそん喉のこを月の嵐ふか
うけえのあつ度さのむと生大振
よるのあつさの愛ぬとせらる

素凡
宗瑞
文母

守歳

同てくすす種も子の松尾を
りくく松尾の種はあひひか
奇くさかからやう控人も拂
おのたやいささと老若て事さ志
きりて種も切らぬと此言
かふるりま年當り人かと一は言
同くま梅の去まもあつと
け粉客隠道傳のいさすか

因竹
月棠
連文
青雨
魚波
文来
石盤
富屋

丁巳年何系姑寺也寺也寺也 阿人

○

丁巳年何系姑寺也寺也寺也 吐月

年内立基

丁巳年何系姑寺也寺也寺也 葵太

轴

丁巳年何系姑寺也寺也寺也 来許

丁巳年何系姑寺也寺也寺也

個人研究費
雲英末雄
58-2049

